

令和2年度 行田こども園 自己評価分析と今後の課題

1. 対象者

保育職員12名（内訳：正規職員8名、パート職員4名）

2. 方法

「教育・保育の計画性」「教育・保育の在り方、幼児への対応」「保育の在り方、3歳未満児への対応」「保育者としての資質や能力・良識・適性」「保護者への対応・守秘義務」「地域の自然や社会との関わり」「保育者の専門性」の7つの大きな評価項目より、当法人の理念や方針を考慮して計106個の評価項目を作成した。（別紙参照）

3. 評価・分析方法

「1 よくできている」「2 まあまあできている」「3 あまりできていない」「4 まったくできていない」の4段階で回答を求めた。また、集計した回答について基本統計処理を行い、その結果をもとに園内研修にて話し合い、今後の課題について話し合った。

※対象者が少ないため、分析結果はあくまで傾向とする。

4. 結果

I. 教育・保育の計画性（1：25%，2：61%，3：14%，4：0%）

約85%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ①週に2回、継続的に異年齢で遊ぶ機会を設けたことによって、日常生活での異年齢交流も深まったので、引き続き継続していく。しかし、遊びに偏りが出てきてしまう時期があったので、保育者間で意見交換を行いながら、様々な遊びを活動の中に取り入れられるようにしていく。
- ②園での子ども達への関りをHPやルクミーを通して保護者に発信していく。
- ③他のクラスの教育・保育を見に行く時間を確保していく。

II. 教育・保育の在り方、幼児への対応（1：30%，2：51%，3：19%，4：0%）

約80%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ①「ダメ」や「～しなさい」など制止や禁止の言葉掛けをしてしまう事があった。子どもの危険に繋がるような行動については、短く分かりやすい言葉で制止・禁止の声掛けを行っていく必要もあるが、基本的には、肯定的な声掛けや“先褒め”の声掛けを意識して習慣にしていく。
- ②「幼児期の終わりまでに育てて欲しい10の姿」を捉えた上で子ども一人ひとりの発達状況を把握し、日々各クラスの保育者間、以上児・未満児クラス間で反省と課題を共有していく。
- ③子どもへの気づきが遅くなってしまう時があった。日々の子どもの発達に関する話し合いの質を高め、職員一人ひとりの気づきが増えるように努めていく。

III. 保育の在り方、3歳未満児への対応（1：49%，2：39%，3：12%，4：0%）

約90%の職員が「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ①クラスの職員同士の受け取り方の違いで、子どもへの対応が異なってしまった。受け取り方の誤差を事前に埋められるよう、その意味までしっかり共有しながら保育をしていく。

- ②自分の気持ちを表現する力が十分でない子どもの気持ちを汲み取るための援助で、不十分なことがあった。子どもとのスキンシップや会話をたくさん行っていき、子ども一人ひとりの小さな変化に気付けるようにする。子どもが取った行動を言葉にして表現し、子どもの反応を捉えて行動できるように努力していく。
- ②コロナ禍での保育環境の設定が非常に難しかった。引き続き、布団の向きや食事の人数、配置、手洗いなど、活動中は常に「3密回避」を意識しながら保育環境を整えていく。

IV. 保育者としての資質や能力・良識・適性（1. 35%, 2:46%, 3:19%, 4:0%）

約80%の職員が「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ①部下に対して事前指導が十分でなかったため、行った後に手順の指導などを行ってしまったことがあった。事前に部下が考えている手順などを聞き、行動に意味づけをした上で、部下が自信を持って行動できるようにしていく。
- ②お迎えの時間帯によって保護者対応の時間に差ができてしまった。普段なかなか会えない保護者の方を優先して、保護者対応が公平にできるように努めていく。また、お迎えが4時前後の家庭にも配慮しながら対応できるようにしていく。
- ③画用紙の切れ端なども上手く利用して、教育・保育に取り入れていく。
- ④教育・保育に関する気付きの情報共有をクラス内だけでなく、他クラスとも共有していくことで、質の向上に努めていく。
- ⑤子どもの手本となれるよう、日々の自分の言動を振り返り、改善をしていく。

V. 保護者への対応・守秘義務（1. 45%, 2:38%, 3:17%, 4. 0%）

約80%の職員が「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ①保護者から受けた相談について、すぐに返答できずに2日経過してしまう事があった。メモをしっかりと取り、当日又は次の日までには返答できるように、連携を取っていく。
- ②保護者の方と友達同士のよう話してしまう時があった。話し方について、一人ひとりが十分に意識し、気付いたときはお互いに声を掛け合えるように努めていく。
- ③昨年度に引き続き、改善に努めていたものの前担任との引継ぎの中で不十分なところがあった。より深く子どもの理解をした上で新年度を迎えられるよう、引継ぎを丁寧に行っていく。

VI. 地域の自然や社会との関わり（1. 34%, 2:46%, 3:18%, 4. 2%）

約80%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ①コロナ禍のため、地域の人と関わるのが少なくなってしまった。（地域の方々、実習生、ボランティア学生等）コロナ禍でもできることを考えつつ、収束したらより良い環境が整えられるように努めていく。
- ②コロナ禍のため、収穫した野菜でクッキングをすることができなかった。クッキングが行える環境を検討し、次年度は可能な範囲で子ども達とクッキングを行っていく。

VII. 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度（1：21%，2：59%，3：20%，4：0%）

約80%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ①園外での研修が難しい分、WEB研修や園内研修、日々の話し合いを大切にしていく。どんな形であれ、職員一人ひとりが課題と向き合い、保育者としての専門性を高め続ける努力をしていく。常に学ぶ姿勢を持ち続ける。
- ②新しく購入した玩具や教材、遊具についてその特徴や正しい使い方について職員間で情報共有ができているか確認する。